

## 国際化が進む Niseko のプロモーション

Niseko では、2003 年に初めてコンドミニアムが建てられて以降、分譲型の宿泊施設の建設が続いている。大型のマンションタイプ、小規模なシャレータイプ、戸建ての別荘タイプなど、多様なスタイルの建物が建設されている。いずれも、海外の富裕層をマーケットとして設計されているため、部屋の大きさ、ドアのサイズ、天井高、どれをとっても欧米規格であり、外装、内装、家具、調度品も質の高いデザインやブランドが使われている。国際規格の宿泊施設のこれだけの規模での集積は日本国内で他に例がない。

これらの施設の増加に合わせて来訪客に外国人の占める割合も年々増加していった。一方、不動産会社、開発会社、コンドミニアム管理会社、アクティビティ会社、レストラン、旅行会社など次々と外国人事業者によるものが増えていく。地域の観光事業者にも外国人の占める割合が増えている。

Niseko は、倶知安町、ニセコ町の2つの町にまたがり、4つのスキー場を有する広大なスキーエリアである。アンヌプリ山の斜面に北東から南西に向けて、花園、グラン・ヒラフ、ニセコビレッジ、アンヌプリのスキー場が並んでいる。各スキー場が独立していた時代はそれぞれの地域のスキー場として認識されていたが、コースがつながり共通のリフト券が販売され、一度に全てのスキー場を滑られるようになった。現在、来訪客は、スキー場のある自治体を意識することが無くなり、ニセコ連山及び山麓地域全体を Niseko (ニセコエリア) として認識している方が大半を占めている。

現在は冬に大きなウエイトがあるが、夏の滞在客も年々、増加している。高級ホテルのリッツ・カールトン、パークハイアットの進出が正式に決まるなど、国際的なリゾートとしての評価が高まっている。

倶知安町には一般社団法人倶知安観光協会、ニセコ町には株式会社ニセコリゾート観光協会があり、イベント、観光プロモーション、観光資料の作成等をそれぞれで行っている。広域での取組みがこれまで以上に重要となっているが、町域を越えた活動は個別の観光協会では取り組みにくいこともあり、改善が要望されていた。

ニセコエリアの索道(リフト)事業者、宿泊施設、アクティビティのサービス事業者、飲食業者などの企業と個人が集まり、リゾートとしての Niseko を広域で考え活動する組織と

して、一般社団法人ニセコプロモーションボード(NPB)が2007年(平成19年)9月に設立された。

NPB は、地域の持つ豊かな自然と宿泊・飲食などの施設、地域での各種サービスを広く周知させ、ニセコファンを増やすことで地域全体の持続的な発展を目指す事を目的としている。現在の活動は、ニセコエリアのプロモーション、地域連携の促進、観光インフラに関する調査や要望活動、商品の開発・企画などである。また、主な発行物は、飲食店ガイドの Wine & Dinner、アクティビティ関連ガイドの Area Guide、リゾート内の案内地図 Area Map、時刻表をまとめた Transport Guide であり、毎年ウィンターシーズン初めに発行している。2015-2016 シーズンは、Wine & Dinner (日英2カ国語版6万部)、Area Guide (日英2カ国語版4万部)、Area Map (英語版9万部、日本語版6万部)、Transport Guide (日英2カ国語版5万部)を発行した。



NPBの発行物

冬期間は、国内外のメディア、旅行者、スキー・スノーボードの撮影クルーなどがたくさん訪れる。これらの方々への対応も NPB の業務である。Niseko の魅力や楽しさを取材に来る方々に伝えることは非常に重要である。どのようなイメージで伝えられるのか、どういった情報が届けられるのかのチェックも行っている。

2つの観光協会と NPB は、業務の連携と分担をしながらそれぞれ独立した活動を行っているが、外部から見ると分かりにくい状況にある。海外のリゾートでは、観光局が大きな役割を持って対外的な活動を行っている。ニセコエリアでも将来的には、公的な財源を持ち、行政と連携した、広域で多角的な活動ができる組織「ニセコ観光局」を作ることを視野にしている。

(一般社団法人ニセコプロモーションボード 大川富雄)